

# 令和7年度 野田看護専門学校自己点検評価結果

R8.1 自己点検評価委員会

## 1 自己点検評価の目的と取り組みの経過

学校自己点検評価とは、本校の教育活動および運営状況について、その達成度や妥当性などを自ら評価し組織的・継続的な改善を図るしくみである。目的は、教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育活動を全職員が一丸となって追及するとともに、社会に対する説明責任を果たすことにある。

本校では、平成16年より自己点検評価を導入した。開始当初は、厚生労働省が示す「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」に基づき、9つの大項目・46の小項目について5段階で評価を実施した。その後、平成23年度に評価の客観性を高めるため質問項目や評価基準を見直し、8つの大項目・61の小項目による4段階評価へと移行した。なお、評価結果については平成27年度より継続して本校のホームページ上で公表している。

## 2 令和6年度自己点検評価の重点課題に対する令和7年度の主な取り組み

### 1) 働きやすい職場環境の整備

- ・業務改善と効率化：時間外削減に向けた委員会の再編、緊急時を除く報告連絡相談時間の見直し
- ・人的リソースの確保：欠員に対する前倒し採用の実施、長期研修者に対する臨時任用職員の確保
- ・体制強化への働きかけ：教務事務職員の継続採用、実習補助教員の採用に向けた継続的な要請
- ・DXの推進：会議資料のペーパーレス化による事務作業の効率化、Webポータルを導入

### 2) 看護教員の教育力向上

- ・各種研修の計画的派遣：教務主任養成講習会（2名）、看護教員養成研修（1名）、中堅期看護教員スキルアップ研修（1名）、専任教員養成講習eラーニング（12名）、日本看護学校協議会研修会、千葉県看護協会研修、千葉県看護学校協議会研修（学校間ピュアレビュー）、国家試験対策研修等へ計画的に教員を派遣
- ・学習プラットフォームの活用：オンラインプラットフォームNEOの導入しキャリアラダーに応じた動画視聴を推奨し、自己研鑽を促進
- ・学内教育の継続：新任職員を対象とした学内研修の実施

### 3) 入学生の確保

- ・広報活動の広域化：学校説明会の対象エリアを従来の千葉県に加えて茨城県へも拡大
- ・入試制度の最適化：入学試験および募集要項の見直し
- ・学校説明会の改善：参加者のニーズに応じ、学科別での開催日時や方法を再検討し実施

### 4) 安全な教育環境の整備

- ・学生相談体制の充実：なんでも相談室（カウンセラー）の開室時間見直し、学生へのアンケート実施、学生の声を反映したランチミーティングの開催（3回）
- ・ハラスメント防止：実態把握のためのハラスメントアンケートの実施、教職員への研修実施
- ・情報システムの推進：Webポータルを活用を開始し（安否確認・出席管理・成績照会・単位照会など）、利便性を向上
- ・施設設備の計画的修繕：屋上防水工事、照明のLED化、トイレの洋式化、高木の伐採等施設整備を実施
- ・ICT基盤の整備：校内Wi-Fi環境の改善に向けた検討

### 3 集計結果（令和7年度を含む直近5年間）

表1 大項目および全体の平均値の推移

大項目	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
I 教育理念・教育目標等	3.4	3.7	3.4	3.5	3.7
II 教育課程	3.5	3.6	3.5	3.7	3.6
III 教育活動	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5
IV 経営管理	3.3	3.5	3.4	3.4	3.4
V 入学	3.3	3.4	3.4	3.5	3.5
VI 卒業・就業・進学	3.6	3.8	3.6	3.6	3.5
VII 地域社会	3.6	3.4	3.4	3.3	3.0
VIII 研究	3.0	3.2	3.1	3.2	3.0
全体平均	3.4	3.5	3.4	3.5	3.4

【評価尺度】

4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

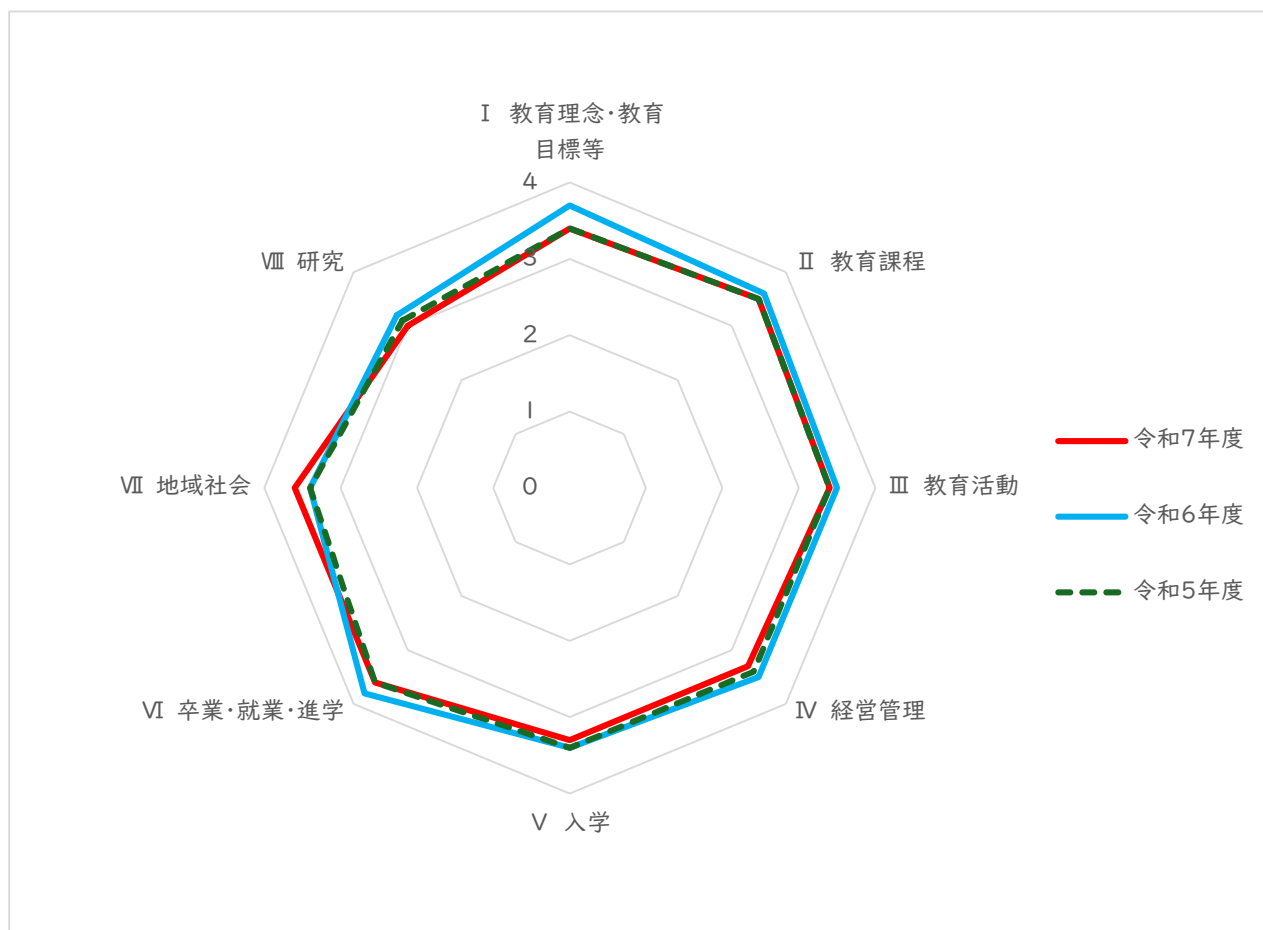


図1 過去3年間の大項目の平均値の推移

#### 4. 自己点検評価の年度推移（令和7年度を含む直近5年間）

令和8年1月

R6年度評価結果に基づき

R7年度に取り組んだ重点項目

前年度より0.3以上上昇

前年度より0.3以上下降

評価尺度：4当てはまる、3やや当てはまる、2あまり当てはまらない、1当てはまらない

評価項目			令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度			
大項目	中項目	番号	小項目							
I 教育 目的 理念 等	教育目標の設定と分析	1	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	3.2	3.6	3.3	3.4	3.5		
		2	教育目標に、養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示しているか。	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9		
		3	卒業時の到達状況を分析し、教育活動にフィードバックしているか。	3.2	3.5	3.2	3.3	3.6		
II 教育 課程	教育課程の評価	4	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性がある内容になっているか。	3.8	3.8	3.6	3.8	3.7		
		5	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか。	3.3	3.5	3.5	3.7	3.6		
	授業概要（シラバス）の妥当性	6	授業概要（シラバス）は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	3.3	3.4	3.3	3.6	3.6		
	単位認定の公平性・妥当性	7	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。	3.5	3.7	3.5	3.8	3.8		
	実習環境・指導体制の妥当性	8	実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っているか。	3.2	3.3	3.2	3.4	3.3		
	実習における倫理的配慮	9	実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施しているか。	3.8	4.0	3.9	3.8	4.0		
	学生指導上の人権への配慮	10	学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか。	3.5	3.5	3.3	3.6	3.7		
III 教育 活動	時間割の妥当性	11	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	3.4	3.2	3.2	3.5	3.4		
	指導方法・内容の妥当性	12	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫し、改善しているか。	3.4	3.5	3.3	3.5	3.3		
	不合格者への対応	13	不合格の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	3.5	3.7	3.3	3.5	3.3		
	授業担当者の妥当性	14	授業の一貫性を確保するため、1科目の担当者数を最小限にするとともに、担当者間の連携がとれているか。	3.0	3.3	3.2	3.3	3.2		
	学生による授業評価	15	学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	3.4	3.8	3.5	3.7	3.7		
	インシデントの把握・分析	16	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7		
	実習指導の役割分担と協働	17	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	3.4	3.7	3.5	3.7	3.7		
IV 経営 管理	学校 運営	目標の設定	18	学校のビジョン及びそれを実現するための目標と事業計画を策定し、かつ、教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか。	3.0	3.5	3.3	3.5	3.4	
		19	目標に対する評価を年度内に実施し、次年度の目標につなげているか。	3.7	3.8	3.6	3.5	3.7		
	組織・運営体制	20	運営組織や意思決定システムは明確で効率的になっているか。	3.2	3.8	3.5	3.5	3.4		
		21	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか。	2.9	3.2	3.2	3.3	3.0		
		22	運営会議や各種委員会の決定事項は職員に周知され、議事録は適切に作成、管理されているか。	3.7	3.7	3.8	3.6	3.6		
		23	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	3.4	3.8	3.6	3.6	3.2		
	財務	24	個人情報保護	24	学生、非常勤講師や教職員の個人情報の保護について、考慮しているか。	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7
		25	学校評価の実施	25	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか。	3.5	3.8	3.7	3.7	3.6
	教育 環境 等	教職員の確保・育成	26	特色ある学校づくりを進めるために、教育内容の充実にも努めているなど、学校独自のカラーを出しているか。	3.5	3.7	3.7	3.6	3.5	
			27	将来構想、中期・短期計画とその目標に基づき要員計画・採用計画を策定しているか。	2.9	3.2	3.0	3.1	2.9	
		情報のシステム化	28	優秀な人材を採用するための募集活動、研修計画はあるか。	2.9	3.2	2.9	3.0	2.9	
			29	学生情報管理システムによる整備はされているか。（入学から卒業までの情報管理）	3.6	3.5	3.7	3.4	3.4	
			30	業務の効率化を図る情報のシステム化はなされているか。	3.4	3.2	3.2	3.0	3.1	
		危機管理体制	31	災害など非常時の危機管理体制が整っているか。	3.6	3.8	3.5	3.5	3.6	
			32	消防計画、学校安全計画等を遵守し、日常的な校舎管理は適切に実施されているか。	3.4	3.6	3.3	3.2	3.3	
		校舎の構造	33	校舎は、安全性・耐震性に優れた構造になっているか。	2.6	2.8	2.6	2.8	3.0	
		施設整備・ 教材の妥当性	34	教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されているか。	2.6	3.1	3.0	3.4	2.7	
			35	図書室は適切に整備されているか。	3.5	3.7	3.6	3.6	3.7	
		構成設備の整備	36	学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられているか。	3.4	3.4	3.3	3.6	3.4	
			37	保健室は適切に整備されているか。	3.3	3.3	3.3	3.6	3.7	
		学生意見の反映	38	学校運営などに学生の意見が反映されているか。	3.3	3.3	3.3	3.5	3.3	
		広 報	39	ホームページは、適時に更新し、見やすくしているか。	3.1	3.5	3.4	3.5	3.4	
		学生 への 支援	心身の健康管理	40	学生の心身面での健康管理体制が整っているか。	3.4	3.4	3.7	3.6	3.3
			学生相談の実施	41	学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じているか。	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7
			就職先での評価	42	前年度の卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その改善策を講じているか。	3.2	3.5	3.4	3.5	3.5
	自主活動等 支援		43	学生のクラブ活動やボランティア活動などの自主活動を支援しているか。	2.9	2.8	3.1	3.0	3.0	
	保護者との連携		44	保護者と適切に連携しているか。	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	
	卒業生支援		45	卒業生への支援体制はあるか。	3.6	3.9	3.5	3.5	3.7	
	V 入学	学生の募集と受入れ (入学希望者開拓)	46	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法・時期は適切か。	3.4	3.6	3.7	3.5	3.5	
			47	学校案内の内容は適切か。	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	
			48	募集要項の内容は志願者が必要とする情報が掲載されているか。	3.7	3.8	3.7	3.6	3.8	
			49	学校説明会、学校見学会（オープンキャンパス）の時期・内容は適切か。	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	
			50	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	3.3	3.4	3.5	3.5	3.5	
			51	志願者状況、定員充足率はどうか。	1.9	2.3	2.5	3.2	3.3	
	VI 卒業 進学 就 業	国家試験対策	52	国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか。	3.5	3.7	3.6	3.5	3.5	
		中途退学の防止	53	中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか。	3.4	3.7	3.3	3.6	3.4	
		就職率の向上	54	卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。	3.8	3.9	3.8	3.6	3.5	
	VII 社 会 貢 献	施設開放	55	地域社会への貢献の一環として、学校施設を開放しているか。	3.6	3.3	3.3	3.3	3.0	
		協力関係の確立	56	地域との協力関係が確立されているか。	3.5	3.6	3.6	3.4	3.0	
VIII 研 究	教 職 員 の 資 質 向 上	効果的な研修計画及び派遣計画	57	学校の抱えている課題を踏まえた研修計画ができていないか。職場内研修及び職場外研修派遣の計画ができていないか。	3.2	3.7	3.4	3.4	3.0	
		職場内研修実施・職場外研修派遣	58	各教員が、必要な研修を受けることができていないか。教員が学内研修や臨床看護研修に参加できていないか。	3.3	3.3	3.3	3.3	3.1	
		研修等の成果の共有	59	研修や出張で学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。	3.4	3.6	3.5	3.4	2.9	
		調査研究活動	60	教員が計画的に研究調査活動を行っているか。	2.1	2.4	2.4	2.8	2.7	
		教員による授業研究評価	61	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	3.1	3.3	2.9	3.1	3.2	
平均			3.4	3.5	3.4	3.5	3.4			

## 6 結果概要

- ・ 全職員 28 名の評価結果の全体平均は 3.4 であり、前年度より 0.1 ポイント低下した。
- ・ 全 8 つの大項目において 3 以上の評価を維持したものの、「Ⅷ 研究」が 3.0 と最も低かった。他の 7 項目についても前年度より 0.1 から 0.3 ポイントの低下が見られた。
- ・ 自己評価という性質上、項目により 1 から 4 まで評価点に開きが見られるものもあった。

### 【Ⅰ 教育理念・教育目標等】

- ・ 3 項目のうち「教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透している」「卒業時の到達状況を分析し、教育活動にフィードバックしている」の 2 項目が前年度より 0.3 ポイント以上低下した。
- ・ 教員は学生に対し、折に触れて理念等の周知に努めていると評価しているが、その浸透度には難しさを感じている。また、経験の浅い教員が多いことから、教員間での理解共有も十分ではないとの認識がある。看護技術経験度表に関する分析やフィードバックについても、多くの教員が不十分であると評価している。
- ・ 今後は、新任教員研修や会議を通じた理念等の再周知を徹底するとともに、卒業時の到達状況の分析およびフィードバックの具体策について各種会議で検討を重ねていく。

### 【Ⅱ 教育課程】

- ・ 前年度と 0.1 から 0.2 ポイントの変動に留まり、大きな変化は見られなかった。
- ・ 引き続き、各種会議を有効に活用し、シラバスやルーブリックに対する理解を深めていく。

### 【Ⅲ 教育活動】

- ・ 「授業担当者の妥当性」「学生による授業評価」「実習指導の役割分担と協働」の中項目が前年度より 0.3 ポイント以上低下した。「授業担当者の妥当性」については 1 科目を複数人で担当し業務の過密化により相談や情報共有が不足していることが一因と考えられる。
- ・ 「学生による授業評価」については、Wi-Fi 環境の整備や実施方法の改善を図ったものの、回収率の低迷が課題となっている。「実習指導の役割分担と協働」については、教員は実習指導者との連携を意識している一方で、より実習指導者と協働していく必要性を感じている。
- ・ 今後は、教員間の意見交換や協力体制を強化するとともに、授業評価について引き続き検討していく。

### 【Ⅳ 経営管理】

- ・ 「目標の設定」「組織・運営体制」「適正な予算執行の進行管理」「学校評価の実施」「教職員の確保・育成」「施設整備・教材の妥当性」「広報」「就職先での評価」「卒業生支援」の 9 つの中項目が前年度より 0.3 ポイント以上低下した。全体的に評価が下がる中、学生情報管理システムの整備が進んだことで「情報のシステム化」は前年度より上昇した。
- ・ 「目標の設定」「組織・運営体制」「適正な予算執行の進行管理」「施設整備・教材の妥当性」については、職員全体への周知と連携体制の構築が課題である。「教職員の確保・育成」については欠員対応や新規研修を評価する一方、教員自身の意識改革の必要性や多忙ゆえに研修参加に困難を感じている現状があり、育成環境の整備には至っていない。「広報」ではホームページの更なる工夫の必要性が共有されている。また、カリキュラム改正後の卒業生輩出に伴い、「就職先での評価」「卒業生支援」を検討する必要性を教員は感じている。

なお、計画的に修繕を進めているが「校舎の構造」は変わらず低値である。

- ・ 教員一人ひとりが学校運営に参画する意識を高められるよう、学内連携と教員育成体制を強化する。なお、安全な教育環境維持のため、令和 10 年度の大規模修繕までは随時修繕にて対応していく。
- ・ 文部科学省からの新たな専修学校における評価ガイドライン（令和 7 年 6 月示達）を踏まえ、次年度の学校評価について検討していく。

#### 【V 入学】

- ・ 少子化や大学志向、准看護師学校の減少もあり、受験者数・定員充足率ともに低下傾向にある。今年度「志願者状況、定員充足率」の項目は 2.0 を下回った。令和 7 年度の入学者は第一看護学科 30 名、第二看護学科 15 名で定員を満たしておらず、入学生確保に向けて取り組んだが令和 8 年度の受験者数の増加には至らなかった。
- ・ 全職員が一丸となり、広報戦略や受験者数増加のための方策を検討していく。

#### 【VI 卒業・就職・進学】

- ・ 教員は学生の状況に応じて面談等を実施し、支援に取り組んでいると評価しているが、対応に困難を感じている部分もあり「中途退学の防止」が前年度より 0.3 ポイント低下した。ただし、実際の退学者数に大きな変化は見られない。令和 7 年度の卒業生は第一看護学科 30 名、第二看護学科 18 名で、県内就職率はそれぞれ 100%と 83%、進学者は 3 名の予定である。
- ・ 引き続き、教職員間で連携し、学生個々に応じた支援に努める。

#### 【VII 地域社会】

- ・ 新たにオレンジカフェ若葉（認知症カフェ）の開催やボランティア活動、フィールドワーク、文化祭等の推進により、前年度より 0.3 ポイント上昇した。今後も、地域交流を教育活動に取り入れていく。

#### 【VIII 研究】

- ・ 「効果的な研修計画及び派遣計画」「調査研究活動」が前年度より 0.3 ポイント低下した。長期研修への代替教員の確保や計画的な学内外の研修参加、オンライン研修の導入などの対策を講じたが、欠員や業務多忙により自己研鑽の時間確保が困難と感じており、改善には至らなかった。
- ・ 教員の意見を反映し、引き続き研修に参加しやすい体制を整備するとともに、日頃の看護教育活動を発表する場の提供を考慮する。

#### 7 今後に向けて

令和 7 年度の自己点検評価結果に基づき、令和 8 年度は以下の重点項目に取り組む。

- 1) 全職員が学校運営に主体的に参画できる組織体制の整備
- 2) 改正法令およびガイドラインに準拠した学校評価の実施
- 3) 情報のシステム化推進による教育環境整備の強化
- 4) 全職員一丸となった入学生確保対策の推進
- 5) 教職員の資質向上にむけた、個々の状況に応じた育成の推進